

経営学はこう学べ

経営学の理論と実践

関根 雅則



関根 雅則 (せきね まさのり)

経済学部助教授

1997年明治大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得。同年高崎経済大学経済学部講師に就任。2000年から助教授。現在の担当科目は、ベンチャービジネス論、イノベーション論、経営戦略論、戦略的経営論。

経営という用語は、企業経営や学校経営、病院経営というようにあらゆる組織と結びつけて用いられます。したがって、経営学の対象はすべての組織ということになります。数の多さや経済に与える影響、その他の理由から、企業が経営学研究の対象となるこ

とが多いので、ここでは企業を前提として経営学の学び方について述べたいと思います。

◆経営学の分野

経営学を学ぶにあたり、まず理解しておくべきことは、経営学にはどのような分野が存在するかで

す。経営学を大まかに分類すると次のようになります。

① 企業や経営学の歴史について研究する分野（経営史、経営学史など）

② 企業とは、あるいはその社会的役割とは何かについて研究する分野（企業論など）

③ 企業をいかに経営すべきかについて研究する分野（管理論、組織論、戦略論など）

なお、これらの分野の中で、アメリカ経営学の影響が強いわが国の場合、③の分野の研究および教育が盛んです。また、③の分野の存在が、他の学問とは異なる経営学の特徴を生起させています。それでは、経営学の特徴とは何なのでしょう。それは、実践性が極めて高いということです。

◆経営学の特徴

学問といった場合、理論を学ぶという意味合いが強いのと思います。経営学も学問ですから、当然のことながら理論を学ぶことは重要です。なお、経営学の理論とは、経営者をはじめとした従業員がいか

を示したものであるといえます。ただし、あくまで方向を示しただけのものですから、現実の場で各々の企業がそれをどのように応用し具体的な行動をとるか（実践するか）は、企業によって異なります。ここに、経営学の場合、理論に加えて実践を学ぶことが重要になります。

◆経営の実践を学ぶには

それでは、企業人ではない学生が、経営の実践をどう学べば良いのでしょうか。一定の限界は存在しますが、簡単な方法としては、書籍や雑誌、新聞、テレビ番組などといったメディアから情報を得るといったがあります。また、企業に直接インタビューしたり、アンケートを行ったという方法もあるでしょう。企業経営者の講演に足を運ぶのも良いかも知れません。さらに、最近では、インターンシップ制度を導入している企業も多いですから、学生という立場で就業体験を積むことも可能です。

最後になりますが、「理論を学ぶで骨格を作り、実践を学んで肉付けする」、そのような姿勢が経営学を学ぶには必要ではないでしょうか。